

常任委員会視察報告書

委員会名	<p>総務常任委員会 (岡田かずのり委員長、上野学副委員長、重黒木優平委員、中澤克之委員、松中健治委員、中村聡一郎委員)</p>
視察先 調査事項 など	<p>1 ふるさと納税について (富山県魚津市) ・10月23日(木) 14時00分～15時30分 ・説明課：魚津市 企画部企画政策課</p> <p>2 公共施設再編計画について (富山県南砺市) ・10月24日(金) 9時00分～11時00分 ・説明課：南砺市 行革・施設管理課</p> <p>3 歴史的文化遺産について (富山県富山市内及び高岡市内) ・10月23日(木) 及び 24日(金)</p>
視察先 概況	<p>1 富山県魚津市の概況 魚津市は、富山県の東部に位置し、人口約3万8000人、面積は200.61平方キロメートル、北東は布施川を境に黒部市と、南西は早月川を隔てて滑川市・上市町と接し、北西には富山湾が広がっています。気候は、夏は短く、蒸し暑い高温多湿で、冬は非常に寒く、風が強く、積雪が多いのが特徴です。 魚津市のふるさと納税は、地元産品を活かした返礼品の充実や、寄附者との継続的な関係構築を重視して取り組んでおり、当委員会では、これらの取り組みについて詳細をヒアリングし、本市の参考とするため、魚津市のふるさと納税について、視察を行いました。</p> <p>2 富山県南砺市の概況 南砺市は、富山県の南西部に位置し、人口約4万6000人、面積は668.64平方キロメートルで、北部は砺波市と小矢部市、東部は富山市、西部は石川県金沢市と白山市、南部は山岳を経て岐阜県飛騨市や白川村と隣接しています。気候は、典型的な日本海側気候で、冬は寒く、降水・降雪量が多い地域です。 南砺市の公共施設再編計画は、南砺市公共施設等総合管理計画における財政シミュレーションで、今後30年間で公共施設面積を約50%縮減しなければ現在の行政サービスの水準を維持することができないとの結論から、将来にわたり持続可能な行政運営を行うために、公共施設として維持すべき施設機能を考慮しながら、公共施設の保有総量の縮減を図るため、個別施設の具体的な再編の方向性を決めました。 当委員会では、本市の参考とするため、南砺市の公共施設再編計画について、視察を行いました。</p> <p>3 富山県富山市及び高岡市の概況 富山市は富山県のほぼ中央に位置し、人口約41万4000人、面積は1,241.70平方キロメートルで、北には豊富な魚介類を育む富山湾、東には雄大な立山連峰、西には丘陵・山村地帯が連なり、南は豊かな田園風景や森林が広がっ</p>

ています。気候は、気温は温暖ですが、年間降水日数が多く、特に冬期は多量の降水（雪）があります。

高岡市は、日本海に面する富山県の北西部に位置し、人口約 16 万 1000 人、面積は 209.58 平方キロメートルで、西側は山間地域で、北東側は富山湾、東側は庄川・小矢部川によって形成された良質な地下水を有する扇状地が広がる自然豊かな地域です。気候は、年間を通して湿度が高く、夏は蒸し暑く、冬は積雪が多いです。

富山市及び高岡市では、前田家ゆかりの歴史文化的遺産が多く残されており、その保存と活用について、実情を把握するため、両市にある建物について視察を行いました。

1 「ふるさと納税について」(富山県魚津市)

10月23日(木)14時00分～15時30分、魚津市役所にて企画部企画政策課の担当者から、ふるさと納税の取組みについて説明を受けた。

魚津市では、地元産品を活かした返礼品の充実と、寄附者との継続的な関係構築を重視している。特に、水産物や農産品など地域資源を活かした返礼品の選定により、魚津ならではの魅力を発信し、寄附額の増加につなげている。また、寄附金の使途を教育・福祉・観光などに明確に示し、寄附者が使途を選択できる仕組みも導入されている。寄附者への感謝状や報告書の送付など、関係人口の創出を意識した施策も展開されており、単なる財源確保にとどまらず、地域とのつながりを深める工夫が随所に見られた。特筆すべきは、担当者が事業者と継続的なコミュニケーションを取ることで、事業者同士のコラボ商品や新規商品の開発を行い、市が記者発表を行うことで新聞に取り上げられるなどの好循環が生じていることである。

所 感

魚津市の事例は、ふるさと納税を通じた地域活性化と市民・寄附者との信頼構築の好例であり、本市の施策検討においても参考となる。



魚津市議会議長からの挨拶



魚津市の視察の様子

2 「公共施設再編計画について」(富山県南砺市)

10月24日(金)9時00分～11時00分、南砺市役所にて行革・施設管理課長から、公共施設再編計画について説明を受けた。

南砺市では、人口減少と財政制約を背景に、施設の総量縮減と機能再編を進める「第2次公共施設再編計画」が策定されている。施設ごとに保有期限を設定し、利用状況や財政シミュレーションに基づいて再編を進める方針である。説明後には、公共施設の貸付事例として、昭和3年建築の城端織物会館を民間事業者に貸し出し、テナントとして活用している現場を視察した。歴史的建造物を活かした民間活用は、地域資源の有効活用と施設維持の両立を図る好例である。なお、市は修繕費用を負担しないため、民間事業者がクラウドファンディングを実施し、修繕費500万円を調達した。

南砺市では、必要不可欠な機能は維持しつつ、休止判断基準を明確化しているほか、提案内容を知的財産と扱う利活用提案事業という仕組みで随意契約により、迅速に譲渡、貸付を決定する手法を用いている点が印象的であった。

本市においても、公共施設の再編に際しては、施設の休止基準を明確化するとともに、地域の将来像と市民の声を踏まえて計画を策定し、迅速に実行することが求められる。



南砺市の視察の様子



じょうはな織館
(旧城端織物組合事務棟)

3 「歴史的文化遺産について」(富山県富山市及び高岡市)

10月23日(木)には富山城及び池田屋安兵衛商店を、10月24日(金)には勝興寺、高岡大仏、前田利長公墓所、瑞龍寺を視察し、本市と同様に前田家にゆかりのある富山市・高岡市における歴史的文化遺産の保存と活用の実情を確認した。

両市では、文化財保存活用地域計画の策定が進められており、文化財を「守る」だけでなく「活かす」視点が重視されている。富山市では、富山城を中心とした歴史的資源を活かし、市民参加型のワークショップなどを通じて文化財の魅力発信に努めている。高岡市では、歴史文化基本構想に基づき、文化庁から地域計画の認定を受け、保存と観光・教育との両立を図っている。特に瑞龍寺や勝興寺などの国宝・重要文化財を核としたまちづくりが進められており、歴史的風致の維持向上計画との連携も見られた。

本市においても、文化財を地域の誇りと未来への資源として位置づけ、保存と活用の両立を図る施策が求められる。



富山城 (富山市郷土博物館)



瑞龍寺